

# 平成 27 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■共同研究 8
主査名	加藤一誠・慶應義塾大学商学部 教授
研究テーマ	欧米を中心とした交通インフラの整備・維持管理・更新の財源調達と組織形態に関わる研究
<p><b>研究の目的:</b></p> <p>今年度はこれまで取り上げることの少なかった鉄道と港湾も含め特定のインフラに偏ることなくテーマを設定して研究会を開催する予定である。</p> <p><b>研究の経過:(4月～9月):</b></p> <p>第1回研究会 7月31日(金) 加藤浩徳氏(東京大学工学研究科教授)「話題提供:東京の鉄道に関して」</p> <p><b>下期へ向けて[課題等]:</b></p> <p>11月21日にはこれまで数年間継続してきたプロジェクトの成果の一部を日本大学経済学部との共催のシンポジウムで報告(詳細はML配布)。その準備もあり、研究会の日程が年度後半にずれ込んでいることをお詫び申し上げます。プロジェクト自体の今後の予定は以下の通り、いずれも日本大学経済学部中国アジア研究センターとの合同開催とする。</p> <p>第2回 11月13日(金) 寺村隆男氏(みずほ総合研究所)「最近の欧米における交通インフラ運営」(仮題)</p> <p>第3回 11月20日(金) 山縣宣彦氏(三井住友海上火災保険顧問・元国土交通省港湾局長)「わが国の港湾政策」(仮題)</p> <p>第4回 12月18日(金)(予定) 加藤一誠「オーソリティの生成と歴史的展開」(仮題)オーソリティ組織の歴史が今後の研究会で報告されることになっている。オーソリティについては、19世紀のインフラに対する資金需要の拡大にともない地方政府が債券を発行したものの不況期には財政破綻が相次いだ。同時に各州には州法にもとづく債務上限があり、その制約を避けるためにレベニュー債が登場した。報告では歴史統計を用いてこうした動きを追う。</p> <p>なお、シンポジウムの内容は以下の通り。</p> <p>11月21日(土)「アジアの交通インフラの可能性を考える」本プロジェクトのメンバーから登壇するのは、加藤浩徳、手塚広一郎、黒沢義孝、味水佑毅の4氏。</p> <p><b>研究メンバー(敬称略):</b></p> <p>加藤一誠(主査・慶應義塾大学) 太田和博(専修大学) 根本敏則(一橋大学) 手塚広一郎(日本大学) 加藤浩徳(東京大学) 田邊勝巳(慶應義塾大学) 黒沢義孝(埼玉学園大学) 小島克巳(文教大学) 後藤孝夫(近畿大学) 味水佑毅(高崎経済大学) 齋藤雅樹(川崎重工業) 西藤真一(島根県立大学) 安部馨(ネクスコ・トール北関東) 吉田雄一郎(広島大学)</p>	